



丸山はるみ いきいき通信 No.38

道政報告
2026年7月号



ホームページ



Facebook



X (Twitter)



Instagram

北海道新幹線 「談合疑惑」

疑惑の徹底究明と 道民的議論を!!

北海道新幹線札幌延伸工事のレール敷設をめぐる、建設会社などが受注調整を行ったとされる談合疑惑が浮かび上がりました。丸山はるみ・真下紀子両道議は日本共産党北海道委員会、札幌市議団とともに、5月26日「疑惑の徹底究明と道民生活を支える公共交通機関として在来線の維持・存続」を求め会見を行い声明発表しました。

札幌延伸に関する総事業費は当初の二倍以上の3兆5千億円に膨れ上がる試算が発表され、財務省は費用対効果について「プロジェクトを中止すべき水準」としています。「談合」により建設費が増大し、国民・道民の負担が増加することがあってはなりません。声明では談合疑惑の徹底究明と工事の一時中断、財政負担や環境影響、平行在来線問題も踏まえ、札幌延伸工事はいったん凍結



記者会見に臨む共産党道議団
(左から)丸山・真下両道議

中止も含め道民議論を

し、中止も含めた道民議論を行うことを求めています。

道民生活を支える 公共交通機関 在来線の維持・存続を

丸山道議は会見で、「談合によって入札価格が釣り上げられていたならば、その負担は当然自治体住民に降りかかる。何のための、誰のための新幹線延伸なのか」が厳しく問われている」と指摘しました。さらに「平行在来線のバス転換は、ドライバー不足解消のめどが立たずに実現の可能性は薄いというのが地元住民の率直な声。新幹線が走っても学校に行けない、買い物に行けない地域でよいのか。北海道新幹線は一旦工事を中断し、地域住民のための公共交通とはどんなものなのか」という視点で、工事中止も含めた道民的議論が必要ではないかと述べました。

イラン戦争がもたらす物価高・ 資材不足から暮らしと営業守れ

2月の米国とイスラエルによる、イランへの軍事攻撃が引き金となり、ホルムズ海峡が事実上の閉鎖。原油だけでなくプラスチック原料となる「ナフサ」不足の影響が、中小事業者を脅かしています。小樽商工会議所をお訪ねし、事業者の皆さんの実態をお聞きしました。



(左奥から)山崎久事務局長、薄井洋仁専務理事、笹原馨次長兼業務課長、原崎美衣相談課長経営指導員

小樽商工会議所訪問 「特別相談窓口」を設置 対応に当たる



小樽商工会議所では、3月23日に石油関連商品の値上げや供給不足に関する特別相談窓口を設けるとともに、市内の事業者から聞き取りを行っています。

これまでも、人件費の上昇や電気料金の引き上げに、思うように価格転嫁できておらず、厳しい経営状況だといま

商工会議所の相談には至らないものの、原油不足の影響は先が見えず、コロナ禍で生じたそのままの返済が続いている事例もあり、対応に苦慮している様子が伺えました。

小樽商工会議所では、経営相談等には随時、適切な支援につなげていくと応じました。

—小樽民主商工会が小樽市に対応を要請—

すでに北海道商工団体連合会が4月に北海道に要請をしています。小樽民主商工会でも小樽市に要請をする聞き、丸山道議が同席しました。

青柳邦夫会長は、家の塗装を請け負ったものの、在庫の塗料では車庫しか塗れない塗料業者の実情を語りました。

灯油を扱う会員は、値上げ幅がウクライナ時の比ではなく、出荷調整を心配しています。

ウニの箱詰めを途中までであとを任せてきたという会員は、商品を運ぶ際の発泡スチロールの値段が5月から3割も値上げ、価格に転嫁できず苦しいと報告がありました。

小樽市は、現在の物価高騰対策はイラン攻撃の前に国会で決議されたものが原資となっており、事態は一層深刻であるとの認識を示し、市内事業者の相談に適切に対応するとともに、道や国に対し必要な対策を求めていくと応じました。



依存症対策は不十分、それでもIRは推進!? シンポジウム「若年者のギャンブル依存症を防ごう」

ギャンブル依存症が若者の間に増えているにもかかわらず対策は不十分なまま、道内へのカジノを含むIR誘致のために有識者懇談会が重ねられています。

そうしたなか、丸山道議は札幌で行われた「ギャンブル依存症を考えるシンポジウム」に参加しました。

国内のデータから推計すると、道内のギャンブル依存症者は、約7万3千人。しかし、医療につながっているのはわずか3百人ほど。

大谷大学滝口直子名誉教授は、ノルウェーやスウェーデンのギャンブル規制と比較し、日本のIR整備法に規定されたカジノ規制は利用金額上限規制がないなど、依存症対策にならないといえます。

「国内にカジノはいらない」 依存症対策は全く不十分

日本は街中にパチンコ・パチスロがあり、世界中の同様のゲーミング機械の6割が国内にあるというギャンブル大国です。

最近では、競馬など公営ギャンブルもオンラインで利用できるようになり、ギャンブルに起因する問題に悩む若者が増加しています。

オンライン利用で増える 若者のギャンブル依存症

また、道の有識者懇談会の構成員でもある精神科の田辺等医師は「若いほど脳の仕組みが変化し行動や欲求のコントロールを失う依存形成が早い。アルコール依存症対策と同様に、予防教育を行うことと、宣伝を制限するべき」と話されました。

当事者「やめ続けなければ 生きられない」

「考えがゆがんでしまった」

後半は、今は回復している二人のお話です。

Sさんは40代。親に連れられて競馬場に行っていたといいます。教師になりたかったSさんですが、参考書を買ったと、もらったお金でギャンブル、バイト先でお金をごまかすなどして、ゆきづまり20代で引きこもったことも。30代のとき母親がガンにかかり、治療代にと限度額いっぱい借りたお金の一部でまたギャンブル。多重債務に陥り特殊詐欺にも手を染め…

丸山道議がIR誘致について聞くと、お二人ともに「カジノができればギャンブル依存症で苦しむ人が新たに増えてくることを防げない」といいます。

新たな犠牲者を生む力があります。新たな犠牲者は認められませんが、経済振興は認められませんか。

～広報委員会～北陸3県で広報や主権者教育の取り組みを視察



道議会の広報委員会は、北海道維新の会を除く各会派から一人ずつ、5人の議員が所属しています。

新潟、富山、福井の各県議会を視察しました。

タブロイド判4頁、 充実の県議会だより

新潟県は、人口約209万人、世帯数約92万世帯（令和7年3月時点）。年4回行われる定例会ごとに約50万部の県議会だよりを発行しています。

代表質問と一般質問をした議員ごとに主な内容を掲載。音声版もあり、録画中継、会議録にもQRコードでアクセスできます。

小中学生の議会体験、小学生対象の夏休み県議会ツアーが好評です。

これが県議会だより!? まるでフリーペーパー

富山県議会は、学生



高校生県議が 本会議場で提言を発表

ふくい高校生県議会は、高校生5名程度でチームを組み5チーム

をメインターゲットに議会だよりを年一回、5万部を作成し、県内すべての高校生に配布、公民館や図書館に配架。プロポーザル入札で業者が作成しますが、思い切ったデザインと内容に道議会広報委員は興味津々。

高校や大学を対象に議員の出席講座も実施しています。

程度が参加。事前に各校を議員が訪問し、質問づくりをアドバイザー。知事部局との質疑を経て本会議場で発表。県政に対し、関心が高まったと感想が寄せられています。

本会議中継には3人の手話通訳士が20分交替であたると聞き、感心しました。

道議会広報委員会では昨年度、それまでの視察を参考に大学生との懇談会を実施。その内容を中心に、高校生向け広報誌を作成しました。

今後道議会への関心を高める取り組みを充実させたいと述べています。

～つなげ！原水爆禁止国民平和大行進～



1958年、たったひとりの青年の行動から始まった取り組みが今年68年目を迎えました。

丸山道議は、道議会では憲法論議を求める意見書や国旗等の法的保護を求める意見書が日本共産党の反対もなく、賛成多数で採択されたことを報告。国民平和大行進を、戦争のない日本でたくさんの人の参加で繋いでいく決意です。